



キャリアアップにはビジネススキルの向上や、資格の取得など必要となるノウハウが多い。しかし、それだけで十分なのだろうか。今は季節柄、だけなく景気でも寒風が吹きすさんでいる。そのような環境で自身の土台を強固とするためには自らの内面に目を向け、精神面を磨くことも重要だ。この点については企業側も同じ考え方のようで、社員研修に力を入れる例が出てきた。ある企業の社員研修の一コマをのぞいてみた。

心を磨け



座禅を組む



風情のある朋学庵の玄閨

凛とした空気

俗世間から離れ

背中に激励

九電工は2012年11月から社員研修に座禅を取り入れた。同社は九州を本拠地に関東など全国で配電や空調管の工事事業を展開している地場大手企業。座禅が行われているのは福岡県と隣接する佐賀県基山町にある研修施設。同年4月に本格的な活用を始めた「九電工アカデミー」だ。

11月下旬、アカデミーの一角に設けられた「朋学庵」に部長クラス8人が集まってきた。遠くは東北や東京からも来てい

る。朋学庵は座禅などのため特別に設けた施設で、11月1日に完成したばかり。敷地面積498平方㍍に、64畳の講堂のほか本格的な茶会が開ける18畳、15畳の和室がある。建物に一步足を踏み入れると壁や天井にふんだんに使われた杉材の香りが心地よい。この日は晴れで室内に日が差し込んでいるが寒く、凜とした空気が漂っている。

その日は3日間のスケジュールで行われる管理者研修の初日。研修を担

当する江浦三弘九電工人財開発部企画・運用グループ長は初日に座禅を行いう意義を「俗世間から隔離して無の状態で研修を受けてもらうため」と語る。ちなみに偶然だが、朋学庵は携帯電話がつながりにくい。もちろん座禅に持ち込みはご法度だ。

座禅は、お坊さんの指導に従つて行う。最初は講話から入る。生きているからには他の命を食べており、歩けば小さな虫を踏み殺しているかもし

れないことや、悪事は求めすぎることや怒りに由来することなどを聞く。時間にして5分ほどだ。

そして座禅の準備に入るため足を組む。両足首とも太ももに乗せる組み方もあるが無理しないことが重要。痛みが難念となることは元も子もないからだ。ベルトがきついようなら緩めてよい。組んだら体をゆっくり左右に振つて安定させたり脇腹を伸ばしたりして体勢を整える。

庵
いおり
で座禅

都心に近い。アジアが近い。未来に近い。

マリンメッセ福岡

福岡国際会議場

福岡国際センター



福岡空港、JR博多駅から至近のアクセス。アジア各国へ向けた海の玄関、博多港国際ターミナルに隣接したゾーンに3つのコンベンション施設が集結し、多彩な可能性がひろがります。アフターコンベンションは、玄界灘の幸をはじめとするグルメや、都市型のエンターテインメントも充実。福岡は、世界の人々を魅了することができるコンベンションシティです。



財団法人 福岡コンベンションセンター
FUKUOKA CONVENTION CENTER

マリンメッセ福岡 福岡国際会議場 福岡国際センター
〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL:092-262-4111 FAX:092-262-4701
<http://www.marinemesse.or.jp>

<http://www.marinemesse.or.jp>